5.宣教における共同責任

質問：皆さんの教会では、信仰教育や社会での奉仕活動の計画は、だれが、どのように決定しているでしょうか。誰が計画の実施を担っているでしょうか。その人たちは、どのように選ばれ、どのような養成を受けていますか。それ以外の人たちは、彼らを十分に支援していますか。

社会生活で人とのつながりの大切さを痛感するので、教会では担当部会に集うことが原点
教会で次の世代に引き継ぐために貢献したい
選ばれたのは前部長から一本釣りで、丁寧に活動内容を教えていただいたので、よく活動内容は理解できた
各部会の奉仕メンバーに活発な方がおられればとても刺激になる。

自らが神と共に生きていることを示すこと
自分のための信仰を深めることが周りの人のためになっていることもある
人を赦すこと、赦し続けること
教会の力を必要とする人のために奉仕と犠牲は欠かせない
社会での奉仕活動は、信徒それぞれが、責任を持って行っている。
社会での奉仕活動は役場とクリーンパートナーを結び施設管理の方を中心に活動

信仰教育は教育部、修道者が担当。求道者には、求道者に同伴する信徒がその役割として担当
洗礼準備は主に神父、担当シスター、日曜学校の先生達で、洗礼志願者には一般信徒が同伴
担当司祭・連絡評議会、それに参加する各委員が計画を立案する
担当司祭、評議会、５つの奉仕の各部の部長で決定
評議会で各部会からの計画案を、討議・決定・実行を評議会・各部会が担っている。
教会の中でみんなが声をかけあうことや大人が祈る姿を見せることが教会や信仰の理解につながる
評議会で決定している各部会の役割を果たす、各人、自分の役割を行うことで支援している
部内の活動を通して支援している
コロナの関係で活動は中止しているが、役員さんたちが中心となって活動してもらっている
10数年に及ぶ奉仕活動　活動であるがコロナ禍で2年中断し、受け入れ先に対する配慮からか全面的に宗教・宣教活動は抑えている。
役員に頼まれたときは支援する
何もできないと思わず、自分のできることを捧げる
小教区の計画は評議会で方針を話し合い決定される

ブロックの年間計画を受けて、具体的な取り組み計画を立て、担当者を決めて取り組んでいく
ブロックごとの会議に図って決定し行動し、それ以外の人は各自可能な範囲で支援してくれている
ブロックの方針、決定事項などを小教区に持ち帰り、評議会に報告し、伝達し、活動に反映できるよう努めたい

教会の行事、典礼に、わずかでも参加する
活動は一人一役で分担して奉仕する仕組みがあり、年度ごとに各人が自由に役割を選択して奉仕する
小教区の一人一人が何らかの任務を一つ以上担う体制が出来上がっている
少人数の教会で、一人二役の方もいるが、相互協力して信仰を深め支援をしている
小教区内での信仰教育育成（教会学校、侍者練習等）や奉仕活動はできる範囲で役割を分担して進めている

受洗後一年だが、教会の活動に関して人頼みなので、出来ることをもう少し考えていきたい
教会役員は推薦投票で決定し、部会員は奉仕しようとしている
現在評議員 2 人で計画がされている
前任者より引き継ぎあり、支援してくれている
教会の奉仕役員は地区内で選出され任期は決められている
総会で役員が任命され、年間計画などを話しあって決め、結果をプリントで知らせる
各言語コミュニティから代表を出し、評議会で計画を決定している

教会堂の存在は、近隣の市民には由緒あるものとして善意で受け入れられ、喜ばれている
司祭、役員が決めている　各グループが自主的に決めている
司祭のアドバイスと何十年と続いている行いなどで役員地区委員さんの協力で
クリスマスもイースターもイベント化されつつあって、宗教をこえて社会に入りつつある
地区より選ばれた代表の役員会によって計画され、最近では全戸で参加する
仕事でも教会でも奉仕活動している、一緒に助け合えたらいいと思う
奉仕活動は個人がボランティアで行っている
小教区評議会の委員として、ブロック会議に参加する役割を担い、奉仕している

教区の講座や研修会、ウォーカソンなどの慈善イベントへ参加することはある
ウォーカソンでは、参加する人、スポンサーになる人、どちらも積極的に協力している
ミンダナオ子ども図書館への支援のための募金活動、古着集めなど、交流もしている
アムネスティ活動では、支援のため、月に１回ミサ後の募金活動（昼食用うどん販売）と定例集会
ユニセフ、ふるさとの家、福祉施設への支援は、信徒の有志が自主的に呼びかけ、支援している
平和旬間イベントでは、被爆者の問題だけでなく、阪神・淡路大震災と東日本大震災、JLMM のカンボジアでの活動、カンボジア難民受け入れと学校づくりなどの問題にも取り組んできた
ロシアのウクライナへの侵攻を目の当たりにし、平和のための祈りを唱える活動はますます重要になると確信
できることは協力していきたいと思う
一年に一度の平和旬間の講演会やシンポジウムに多くの人が参加するよう誘っている
平和旬間の期間中のみならず、7 月の主日からミサの前に平和のロザリオを唱える習慣が定着している
従来のやり方にとらわれずに発想する

カトリックの良さは、人に見えずに良いことを行っていること
他の宗教は、決まり事が多いが、カトリックは表に出ないところで良いことをして、結果として、良く思われる
信仰のきっかけは、困った時や救いを求めているときに助けられたことから始まる
信徒が自分のことをまわりに伝えることをもっと行うことが大切

日曜学校ではその時々の典礼、みことばに合わせて話をする
教会学校、集まる子どもたちの親が中心となって活動（こじか・初聖体・堅信の勉強）
ブロック内の子どもの合同合宿（夏休み）や修道会のイベント、教区主催の侍者合宿などへの参加
20 年前からブロックで協力して共同でキャンプ、堅信の勉強、リーダー育成のための黙想会等を実施
教会学校行事は保護者も子どもたちも積極的に計画し、活動しており、教会もそれを支援している
信仰教育はシスターを中心に教会学校を定期的に行っていた
小教区内で協力を要請して手助けしてもらっている

教区が行っている信仰教育に参加
信仰教育の計画は教育部、社会での奉仕活動の計画は社会活動部で立案し、評議会に提案して決定
計画の実施は、信仰教育は教育部員が、奉仕活動は社会活動部員が中心に担っている
教育部は、教区主催の教会学校指導者研修会や求道者に同伴する信徒養成講座などの養成の機会あり
教会学校の活動を通して関わっている
自分ができなくても教育や奉仕しているひとを助け、支援していく

財務部に入り、ミサ、維持費納入や献金、行事以外の教会の活動の流れがわかってきた
活動に参加出来ない方も　祈りや献金などで参加出来る
地道に連絡していくなどの、小さなことが大切

ブロック主催の行事への参加、教区主催の行事やセミナー等への参加を通して関わっている
養成は教区の研修会で行って、参加は各自に任されている
求道者に同伴する信徒養成講座にも２名が参加した
養成を受ける機会があり、司祭、信徒の要請で結婚講座を担当、さらに支援が必要
役員や教区担当は選挙で選ばれる
推薦、選挙、互選で選ばれ、教区の研修会等の養成を受ける
「求道者に同伴する信徒」「教会学校指導者講習」「典礼研修」等に参加した青年が教区で活発に活動しているのは日曜学校の指導の賜物

定期的な学びの機会で、参加者の意見を聞いて司祭がイニシアティブをとっている
教会だよりに、わたしの好きな聖句や、先達の体験や故人の信仰生活の思い出を掲載し、信仰の分かち合いを促すように努めている
できるだけ多くの教会員が「教会だより」に参加できるように配慮し、新しい企画を提案してもらえるように努めている
対面、オンラインなど選択肢があって使い分ければよい
講座に信徒が集まっているだけでも励みになる

聖書研究グループがある
カトリック・ミッション・センターは、責任者以外信者ではないが、協力的に宗教的な活動をしている
オンラインでの入門講座を活用するのは良い方法だ
信徒の有志がキリスト教入門の指導をしている
イエスが決めている

〈課題〉

今後の宣教活動の必要性、養成は、今回のシノドスを踏まえ、教区、小教区で再考が必要
共同宣教司牧なのだから、司祭一人、信徒一人で決めるのはよくない、共同体の中で話をする
ヴァチカン公会議後は、司祭、修道者、伝道士だけでなく、信徒も福音宣教に関わるよう示されている
「みんなでやる」ことになっていて、先導する人の熱意次第で協力体制が出来る
皆で新しい人を祝福し受け入れることができる仕組みを考える

コロナ以来、評議会はじめ部会も低調だが、共同責任の重要性を考えさせられる
教会に来る人たちの喜び、苦しみ、悲しみなどを分かち合いたい気持ちを受け入れられる体制が必要
与えられた賜物は人それぞれなので、全ての人を受け入れる寛容さが必要
信徒間でもよく教会に来る人と来ない人、よく奉仕する人としない人で溝が出来ている
特定の信徒のグループで教会を運営している
ごく僅かのメンバーによる宣教活動に他の信徒は任せきりになっている

司祭と一部の信徒のみが行っていて、多くの人は無関心
奉仕活動も一般信徒が呼びかけに答えていると思っていた
教会内の事務業務がうまく回っていないこともあるので、専門の事務職などが必要
司祭やシスター、評議会の役員に世話になってばかりで、他の人からの支援は不十分
小教区評議会で主に決定しているが、実際は司祭が計画の実施を担っている
役員の評議会で担っているが、実際の個々の計画は役員任せで、全体として十分には協議していない
役員以外の人たちは役員を十分に支援しているとは思えない
役員さんが選ばれ、計画の実施を担っているが、負担が大きくて大変だろう
役割分担し、担当部が計画を立てて頑張っていただいているが、一般信徒の協力が少ない

信徒数が少ない中で誰かが受け持たなければ成り立たない
小さな共同体では顔見知りになり、少しずつ責任を分担していくことが必要
選ばれたとか養成を受けたとかではないが担わなければ仕方ない
役員の苦労に支えられて安心してミサにあずかれるので、役員を支えるのが役目
特定の人たち以外の十分な支援はない、限られた人に負担が増している
コロナ禍のため地区からのミサ参加が少なくコミュニケーションが取れずにいる

教会に行けば役が回ってくると思ってこない人あり、後任はいない、これが本音
地区の代表が地域ごとに当番で互選されるようになって、勉強され、役員になって役員の大変さが分かる
部会に入らない方が多く、信徒の務めとして奉仕するという意識が低い
５部会があるが、呼びかけもなく参加の方法がわからない
新しい信徒には教会の活動内容がわからない

せっかく参加を志願したのに、その後何も音沙汰がなく残念なことがあった
コミュニケーションをとって誰もが来やすい環境にしたい
外国の信徒が多く日本人が少人数の小教区で、言葉の壁があって、交流がない
一人では困難なので、兄弟姉妹と共に歩む必要がある
信徒各自が教会だと自覚して教導職に沿いながら行動していく雰囲気が大切
教会の信仰教育や奉仕活動にあまり積極的に関わってこなかったことを反省
個人の事情を言い訳にせず、信徒使徒職があるのだから、司祭と信徒が協働する

宣教における共同責任の意識はほとんどない
世を席巻する科学万能主義と宗教をバカにする風潮に、自分が侮られ、危険視されるリスクを感じる
親として子どもに教会を無理矢理押しつけてきたと反省、子どもに信仰が育ったか疑問を感じている
新しい信徒や信徒でない人々にとって教会はハードルが高い
教会学校よりも大人の信仰教育、信徒養成も大事と考えて活性化を図る

司祭の人数が少なく、多忙なので、司祭の代わりに信徒が受け持てることを考えていく
信徒は、司祭に甘えるだけでなく、信徒の役割を皆で担うようにする
担当者制度に縛られると主体性をそぐが、行事や施策には最終的な責任を取る責任者も重要
司祭の指導のもとで信徒が出来ることは信徒で担っていく必要がある
計画は司祭考えのもとで従来通りのことを行っていることが多い
年に一度の計画の配布、検証も年に一度では有効か疑問がある
常に複数名で受け持ちどんな場合でも、誤解されることなどがないよう務める
洗礼、堅信、初聖体など新しく経験する人に対しては早い段階から話をする

教育部を教会学校と大人の信仰教育（信徒養成）の２本立てにする
次世代の幼児洗礼の信徒が来なくなり、教会が高齢化して活動に参加できる人が減った
子どもの信仰教育は人数が減少して小教区だけで活動することが難しくなっている
信仰教育の計画はいま出来ていない
信仰教育は十分ではない、特に、子どもへの働きかけが少ない

信仰教育について～子どもが忙しい
（教会に行けない）小学生でも予定は詰まっていることが多い
子どもも忙しい現実～中学生ならば、日曜日でも部活動があり、勝手に休めない雰囲気
日曜学校では年齢別クラスの実施が難しくてできていないこと
日曜学校は若い方のリーダーにバトンタッチがうまくできるかどうか

従来の聖書講座や聖書輪読会、入門講座や寄り添いチーム、教会役員、各専門部から探す
役員等の教会内での組織的な選出を策定することは必要
役員等の選考において対象者は少なく、時間的にも協議するだけの余裕がない
養成を受ける機会はほとんどない
養成については先輩部員が情報を伝えているが、組織立てては行っていない

部活動は例えば典礼部、体が続く限り辞めることが出来ない
墓地管理委員会の担当だが、役員の高齢化が進み、日常的な活動にも無理が出てきている
高齢者が多く奉仕活動が実行できない
内実はどの部会も少数の人が担っていて、信徒一人一人がタレントを発揮できる教会でありたい
一人一役で、各自与えられた賜物を駆使して奉仕活動すると決められているが歳を取ると難しい
幾つになっても誰もが色々な奉仕ができることを覚えてもらいたい

信仰を深めたいとミサに参加する方は多いが、教会で一人一役の奉仕をしようと思う信徒が少なくなった
現在、奉仕活動等は、頼まれないとやっていない
高齢者が大部分になっている状況で、後継者養成が重要
育成や養成は受けてない、支援しておられるのかはわからないが、私自身は支援している
良いことを行うことと信仰をどう結合しているか

信仰教育への参加や受講は個人の自主性に頼っている
信仰教育や社会での奉仕活動の計画をする人たちの養成については、まだ十分ではない
教会の仕事を手伝ううちに受洗したが、そういう機会がないと入りにくい
信仰教育や活動には出来るだけ参加しているが、若い人に参加を促しても聞いてくれない現状
信仰教育は余り関心がないが、聖職者がしているだろうと思っている

社会での奉仕活動～ウクライナ人道支援等を実施している
50 年前まで社会に対して「布教」として教えを伝えることをしていたが、現在は福音宣教と言葉を変えている。
小教区の評議会規則に今後は宣教部を設け、教会としての活動を深めていく必要がある
横のつながり・友達が出来ること・集まって話し合えること・おしゃべり出来る信徒のつながりがほしい
一部の人が積極的にボランティアで活動しており、希望すればその活動に参加できるが、参加しなければ教会での居場所はない
ヨゼフ会・マリア会などがなくなり、定期的に集まる機会がなくなっている
部会制度になると、人数が一気に減り、自然消滅しかない
地域ごとに集まる機会もなくなった
和やかな集いの場を作る雰囲気作りは必要

定期的な施設への募金や行事へは参加するが、それ以外への参加は毎年減少
教会内部のことすら人手不足で規模を縮小する一方なので、対外的な活動まで手がまわっていない
高齢化、青年層の行事への不参加が悩み
以前はボーイスカウトやガールスカウトがあり、キャンプ等を通じて心の交流が深まり、友達が多くいた

教会をリードしていく立場にとっては信仰経験と共にその立場を認識して取り組むことが大切
選挙で選ばれた者が役割を担っているが、高齢化と若年層信徒の減少が著しく、担当者は固定化、後継者がいない
世代による違いがあって当然であり、多様なあり方があってよい
教会が掲げる理念が現代社会で価値があることを若い世代に気づいてもらうための働きかけ

福音宣教組織を再編し、同時に次世代のリーダーを養成する
リーダーのための研修や勉強がもっとあっても良いと思う
信徒が誰でもリーダーになれるわけでなく、資格のある人が自信を持って信仰教育に携わるのがよい
小教区の信仰教育のリーダーとなる人を教育、育成する資格制度を作ればよい
昔の壮年会には、次のリーダーを誰にするか、その人をどう育てるか、誰が補佐するかを考えた
今、リーダーを育てる必要性が語られることは少ない
信徒に自分たちでリーダーを育てなさいというのは、今の情勢では無理
司祭がリーダー、またはリーダー補佐の役割をしないと、リーダーは育たない、その点で教会の統廃合に賛成

規則では役員に自薦（立候補）はできない、神を恐れ信任があること
教会活動を通して信徒はそれぞれの立場で福音宣教に携わることが求められている
一人ひとりが宣教者でなければならないとは余り感じない
人を勧誘することは、カトリックの考え方ではない
キリスト者の究極の目的は死後、永遠の命に入れて頂けるにふさわしい者となること
御父が完全であられるように私たちも完全であるように、聖性への道を不断に歩む努力をする
教義の知識に欠けているから、論理的・理性的な説明や反論が出来ず、話題にしないようにしている

ミサで説教を聞き、自分の言葉で話そうとするが、理解してもらえない場合、それ以上話さない
周囲の困っている人、救いを求めている人に気づいて、カトリックに導くようなことができていない
私の家族は仏教で、カトリックは特別な宗教だと思われている
支援はあまり出来ていない
信仰教育や社会への奉仕活動は行っていない
身体不自由で、支援することも出来ていない
高齢の方が自動車免許返納ということで教会へ来る足がない

教会に行くことで、信徒でない家族と距離ができ、子どもしんどさを知って教会を敬遠する
教会に時間がとられ、子どもの授業参観に出たことがなく、子どもとの旅行もほとんどなかった
夫婦で教会ばかりに時間がとられ、子どものことで喧嘩した

信徒の参加は必須の務めであることを司祭が教え、代父母が説明する必要がある
信仰教育については、教区、小教区、家庭と、各々の信者に責任がある
共同体の基本となる家族の中での宣教を見つめ直すことが大事
婚姻の秘蹟を受けていないカップルにその重要性を説明し、婚姻の秘蹟を受けるように勧めていきたい
要理や聖書を知らない信徒が増えているので信仰教育が必要
計画的な信仰教育カリキュラムが不十分
小教区独自の信仰教育や奉仕活動はない

個人的に家庭訪問をして感謝されたことも多いが、教会から反対意見もあって難しい
教会法がきびしく、聖体を受けられないことになると、教会から離れ、信仰も失う
旧メリノールハウスを運営される京都教区およびそこを利用される他小教区との積極的連携と意思疎通による福音宣教の在り方を模索することが必要
地上に神の国を築くためにできることを考えたい

司祭と話ができない
司祭も人間であり、信徒が傷つく要因となっている例がある
司教、司祭の宣教責任というのはあまり聞いたことがない
司祭からの積極的な発言や提案はいたって少ない
戦後の宣教師は指導性が強かったが、信徒の自立・共同責任という観点から司祭の指導性がなくなった
ここまで小教区の力が弱まったら、司祭のリーダーシップも必要ではないか
昔の宣教師は、信者の意見が分かれた時、良いことだからやると鶴の一声
宣教を共同責任という言葉で表現するのは疑問、宣教は喜びの発露だと思う

〈その他〉まとめ担当者から
日本語版と英語版ではそもそも質問の意味合いが違うと感じられた